

2021. 3. 22



ONE PIECE

NO.20

鶴の一声で急転直下の中止

3月17日、開催されると思われていた「支社駅伝大会」が中止になった。各職場では3月5日の政府から発表された緊急事態宣言延長を受け、歓迎会や送別会中止の判断を即してきた。春闘では定期昇給の係数を初めて「4」から「2」に下げ、通常の半分の昇給に留める回答を示してきた。感染リスクを背負いながら業務に就いてきた社員に報いることなく、「人への投資」を後回しにした。コストカットの号令が職場を席卷する中、駅伝大会に向けてユニホームを購入し、「伝統」ある大会を盛り上げようとする姿勢を鮮明にしていた。現場の片隅では「宣言延長なのに中止にしないのか」「おかしいですよ」「出張扱いなので断れない」「こんな時期に開催して感染拡大したらどうするのか」と悲観する言葉が広がっていた。しかし突如として大会中止指令が職場を駆け巡った。だがその理由を会社は明確にするとはなかった…。

3月13日、JR東京総合病院は公式サイト上にて「病棟における新型コロナウイルス

ロナウイルス感染者の発生について」を発表した。各職場ではこの事実を周知することはなかった。このことが中止の判断をさせたと思われるが会社は語ろうとしない。以前、ビジネス誌「財界展望」にて「JR東「付属病院で大量リストラ」の異常」と題され、「杜撰すぎるコロナ対策」と批判されていた。それを受けて会社は全面否定し、掲示まで出した。しかしその指摘は現実になってしまった。社員の中では「また隠すのか」と不信感が渦巻いている。また一部では「開催はおかしい」と思っていた。「判断が遅すぎる」と開催に対して容認し、会社に想いを伝えることなく追隨していた姿勢からの転換に情けなさを感じてしまう。

傍観者で良いのだろうか

3月上旬、労働者代表者選挙の結果が発表された。多くの職場で組合員以上の票を獲得した。その中で「組合の人に投票したのがバレたら飛ばされる」「周りが社友会に投票する中で自分だけ組合の人に入れるのは怖い」「内勤で投票するのは管理者などの目

が気になる」と本当に公平・公正の下で行われた選挙なのかの疑問を抱いてしまう。18春闘以降の「労働組合悪者論」が展開されている中で、その空気を察し、会社に忖度し、自分に不利益を受けない範囲で振る舞う姿勢では最後にモノ言えない職場になっていくことを気付かせなければならぬ。

私は労働組合に入っていなかったが
少し不安だった

私は社友会に入っているから差別は
受けないと思っていた

理不尽な仕打ちを受けたので
声を上げた

しかしその時はすでに手遅れだった